

情報連絡員報告・3月分

イラク戦争勃発以来、原油価格乱高下

～自動車関係業界は特需的な活況の模様～

<東京都中央会>

3月の情報連絡員報告によると、潤滑油の製造業界から、イラク戦争勃発以来原油価格の乱高下に、戦争保険の適用などによるコスト増も加わり、経営は苦しいとの報告が寄せられた。この他、自動車関係業界からは、ディーゼル車の排ガス規制などの特需で多忙を極めているという報告もきている。数値面では、前月とほぼ同様の結果で、明るい材料は見られない。製造業65人、非製造業85人、計150人の集計。

<特記事項欄より>

潤滑油製造=米英軍のイラク戦争勃発から原油価格が乱高下しており、戦争保険の適用等新たなコスト増が経営を圧迫。

鉄工団地=自動車関連は引き続き良好。特にディーゼル車の排ガス関連は製造が間に合わない。

ネジ類製造=総じて悪化基調だが、唯一自動車関連だけが好況を持続。

自動車部品製造=トラック関係は特需で好転。しかし、特需後の落差が心配で思い切った設備投資も人員増もできない。

漬物水産物加工=景気低迷化にあっても、美味しいものなら高くても売れる。

帽子製造=松井選手の影響が今年はアメ

リカンキャップが流行。簡単に作れるので、輸入品に独占されそう。

セメント製品製造=勝ち組みに入る企業は、特殊製品開発技術のあるところ、廉価大量生産に耐える技術があるところ、といった様子。

金属熱処理業=売上は押しなべて好調。ただし、関東地区に限られている様子。

鋳物製造=一部に受注量回復の兆しが見えるが製品単価は値下げされたまま。

配電盤製造=年度末の駆け込み需要もほぼ終わり、4月以降は急速に落ち込む模様。

宝飾品製造=業界全体が冷え込んでいる中、輸入ブランドの攻勢で仕事が激減。

タイヤ販売=業界全体が低迷、メーカー・販社が直接小売に進出して小売の販路を狭めている。

理容用品卸=活路開拓事業の調査で好業績の企業の特徴として、美容市場への参入、商品に付帯する技術講習・経営情報の提供などが明らかになった。

電線販売=例年、期末需要が多少なりともあるのだが本年に限ってまったくない。

古書籍販売=組合員から、大手都市銀行が貸し剥がしや金利アップの一方的通告をしてきているとの報告があり、組合から当該銀行の支店へ改善を申し入れた。

自転車小売=最大の需要期であるが、伸び悩んでいる。修理などの売上も悪い。

自転車は飽和状態なのではないか。

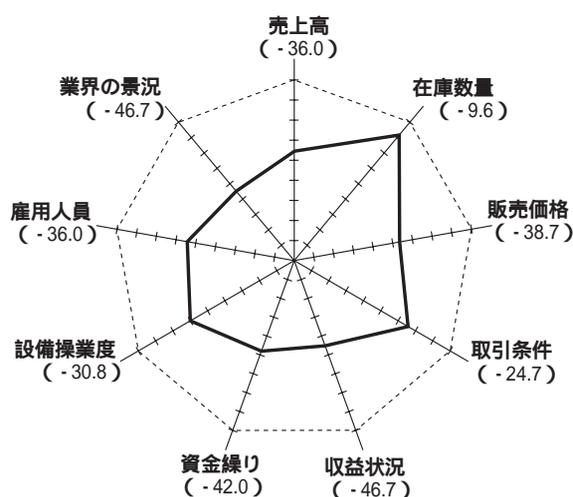
豆腐製造小売=豆腐は天候や気温に売行きが大きく左右される商品です。鍋物から冷奴に移る季節ですが消費が伸び悩んでいます。

電気製品小売=3月に入り昨年並みの売上げは確保できそうだが、持続性は期待薄。DVD・デジカメは好調だが全体を引き上げるには至らない。

<要望事項欄より>

- *景気回復策を望む。 [建具製造、家具製造、ネジ類製造、青果物小売]
- *既存の酒類小売店は規制緩和によって休業・廃業に追い込まれている。何らかの支援がないと飲酒環境の悪化が進む。 [酒類小売]

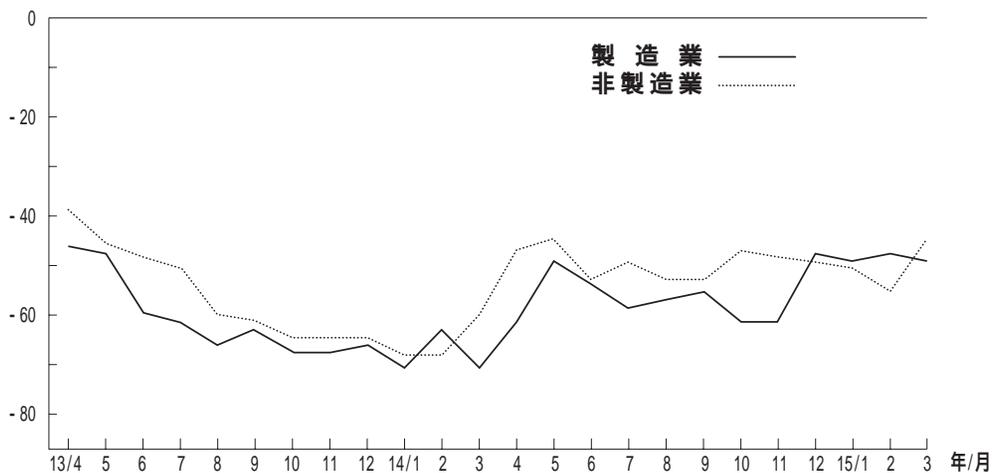
3月のレーダーチャート(全産業、前年同月比DI値)



(注)点線の9角形が「DI=0」を示す。したがって、点線の内側は「減少」「低下」「悪化」、外側は「増加」「上昇」「好転」となる。

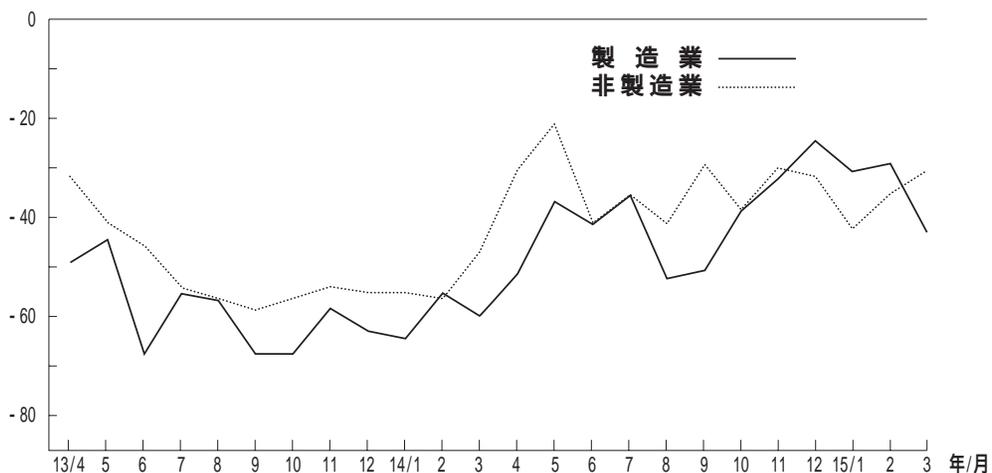
業界の景況DIの変化

(前年同月比)



売上高DIの変化

(前年同月比)



(注)DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前年同月に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。